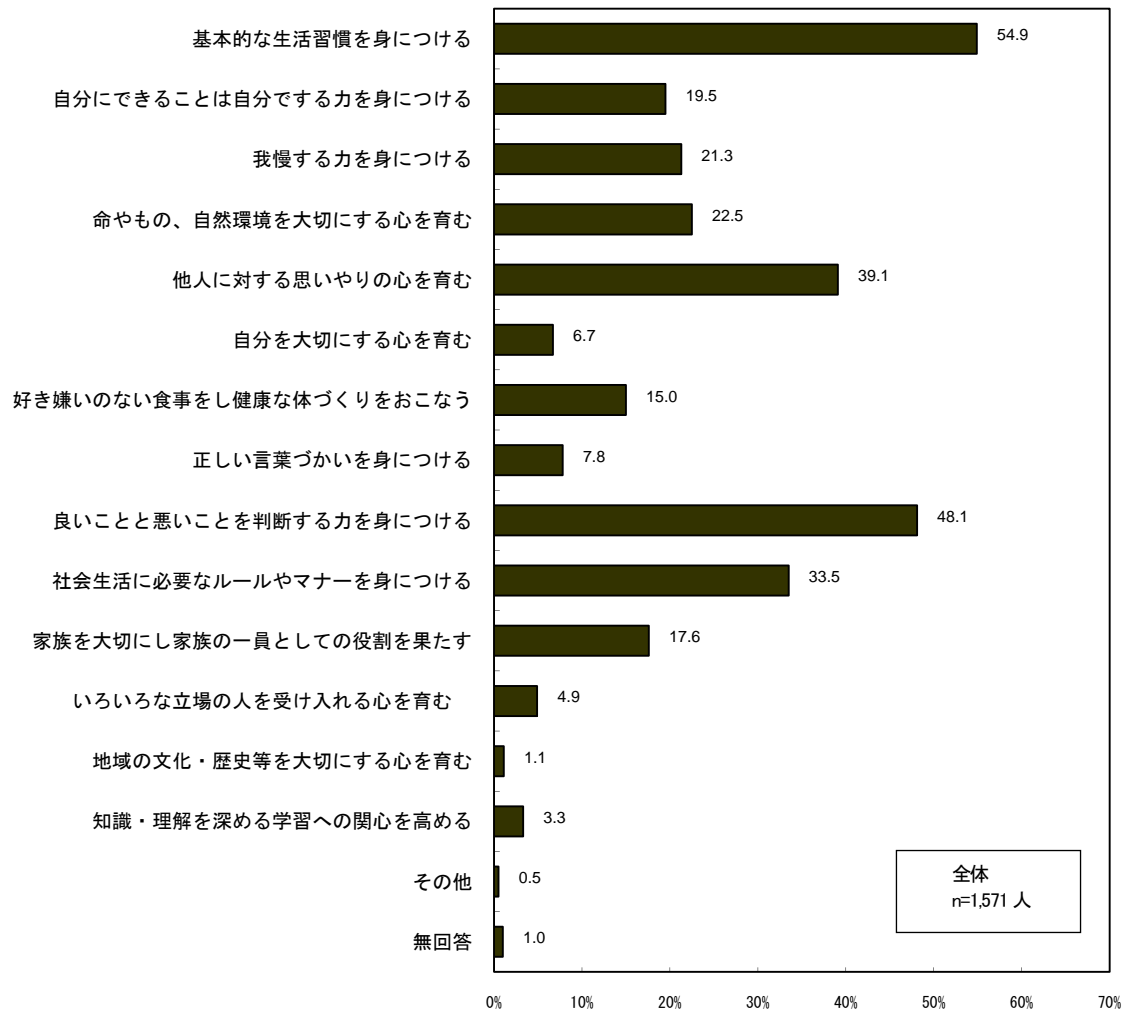


II. 調查結果

1. 家庭における教育力について

(1) 子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なこと

問1. あなたは、子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



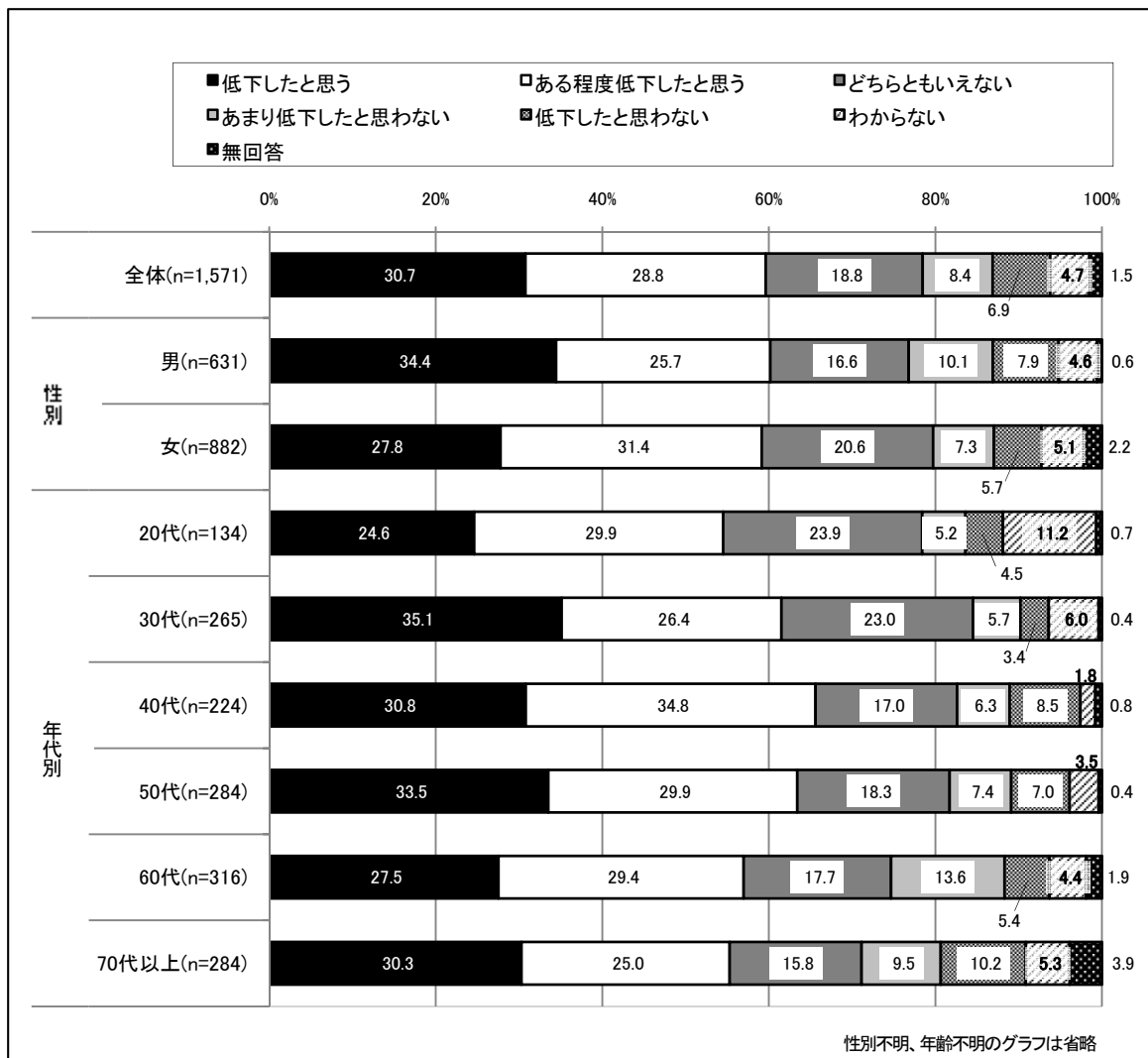
「基本的な生活習慣を身につける」ことが特に大切だと思っている人が半数以上

最も多いのは「基本的な生活習慣を身につける」で5割以上 (54.9%) を占めている。次に「良いことと悪いことを判断する力を身につける」(48.1%)、「他人に対する思いやりの心を育む」(39.1%)、「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」(33.5%) の順に続く。

「地域の文化・歴史等を大切にすることを育む」「知識・理解を深める学習への関心を高める」「いろいろな立場の人を受け入れる心を育む」といった回答は5%に満たない。

(2) 自身の子ども時代と比べての、今の家庭の教育力

問2. 今の家庭の教育力は、ご自身の子ども時代と比べてどのようだと思いますか。
あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



約6割の人が家庭の教育力が低下したと感じている

「低下したと思う」と回答した人(30.7%)が最も多かった。「ある程度低下したと思う」は28.8%。合わせると約6割の人が低下したと感じている。

「あまり低下したと思わない」(8.4%)、「低下したと思わない」(6.9%)は、合わせて2割に満たない。

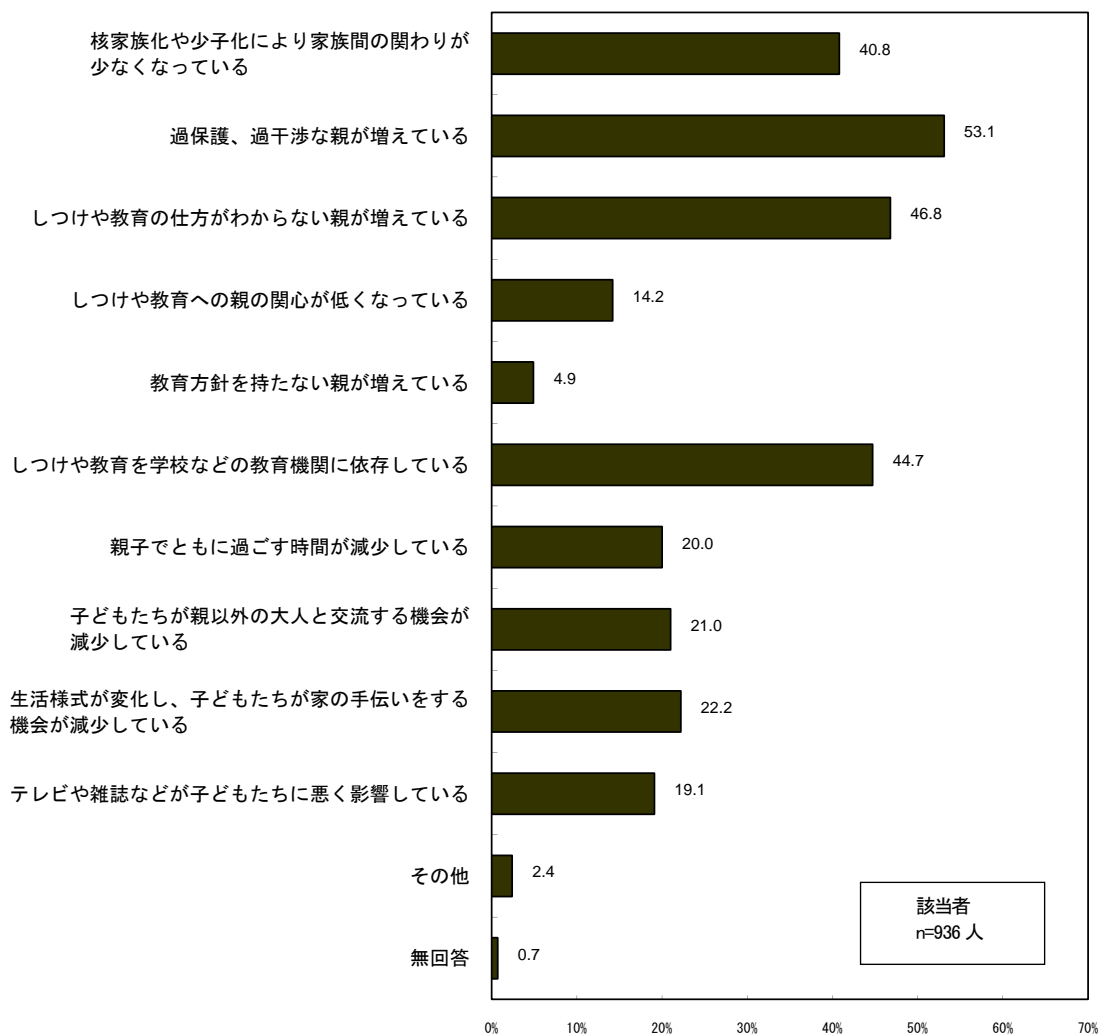
男女別で見ると、「低下したと思う」は、男性34.4%、女性27.8%、「ある程度低下したと思う」は男性25.7%、女性31.4%であり、「低下したと思う」と「ある程度低下したと思う」を合わせた割合に男女による差は大きくない。

年代別で見ると、「低下したと思う」と「ある程度低下したと思う」を合わせた割合が最も高いのは40代(65.6%)。次いで50代(63.4%)、30代(61.5%)の順で続く。

(3) 低下したと思う理由

問3. 問2で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にかがいます。

「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。(SA)



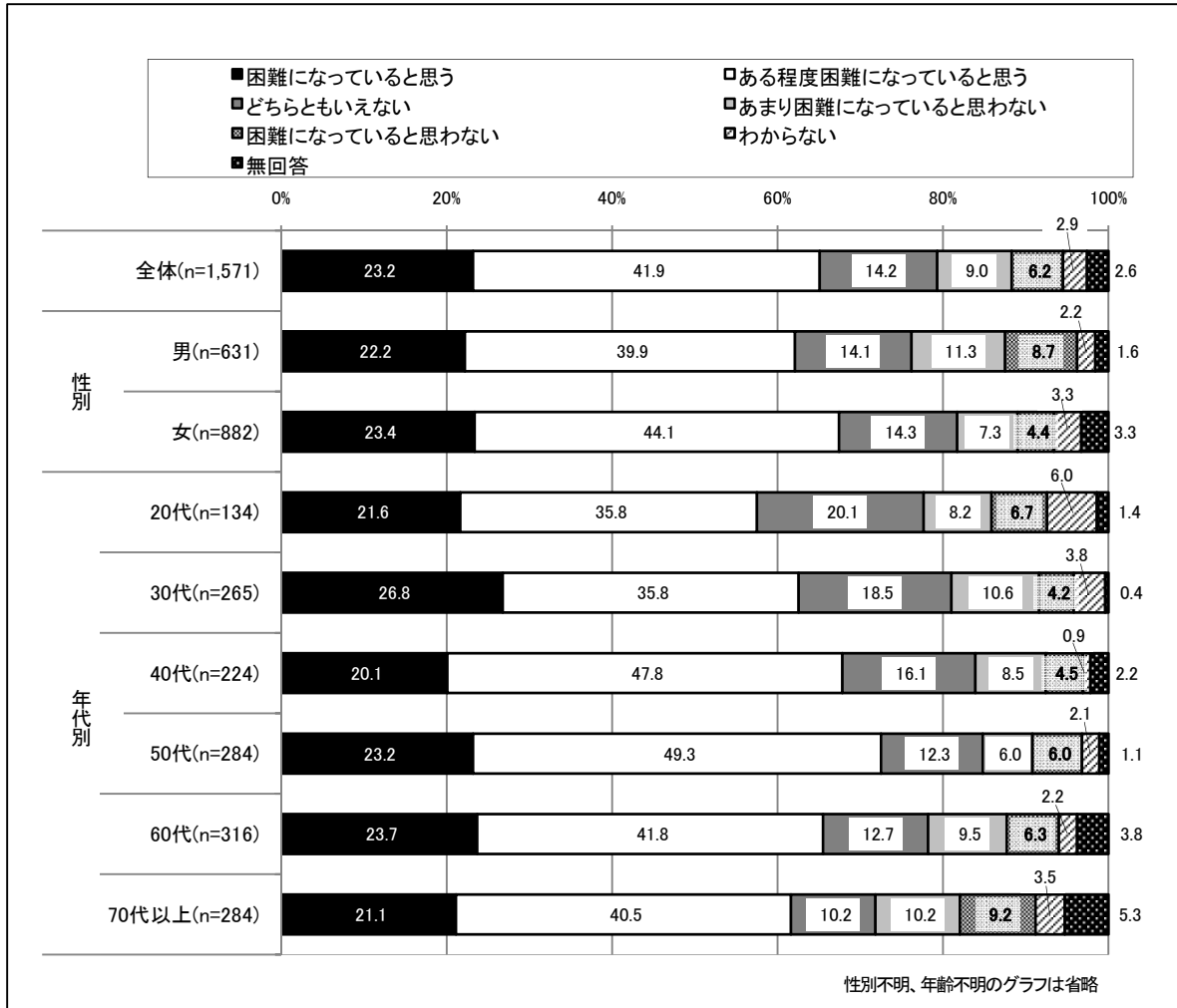
「過保護、過干渉」「しつけや教育の仕方がわからない」「学校などの教育機関に依存」の親が増えている

「過保護、過干渉な親が増えている」(53.1%)と回答した人が最も多く半数を超す。次に「しつけや教育の仕方がわからない親が増えている」(46.8%)、「しつけや教育を学校などの教育機関に依存している」(44.7%)と、しつけに関する回答が続き、その次に「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」(40.8%)が多い。

(4) 自身の子ども時代と比べての、今の子育ての状況

問4. ご自身の子ども時代と比べて、今の子育ての状況はどのようだと思いますか。

あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



約6割の人が子育てが困難になっていると感じている

「ある程度困難になっていると思う」と回答した人(41.9%)が最も多かった。「困難になっていると思う」は23.2%。合わせて65.1%と約2/3の人が困難になっていると感じている。

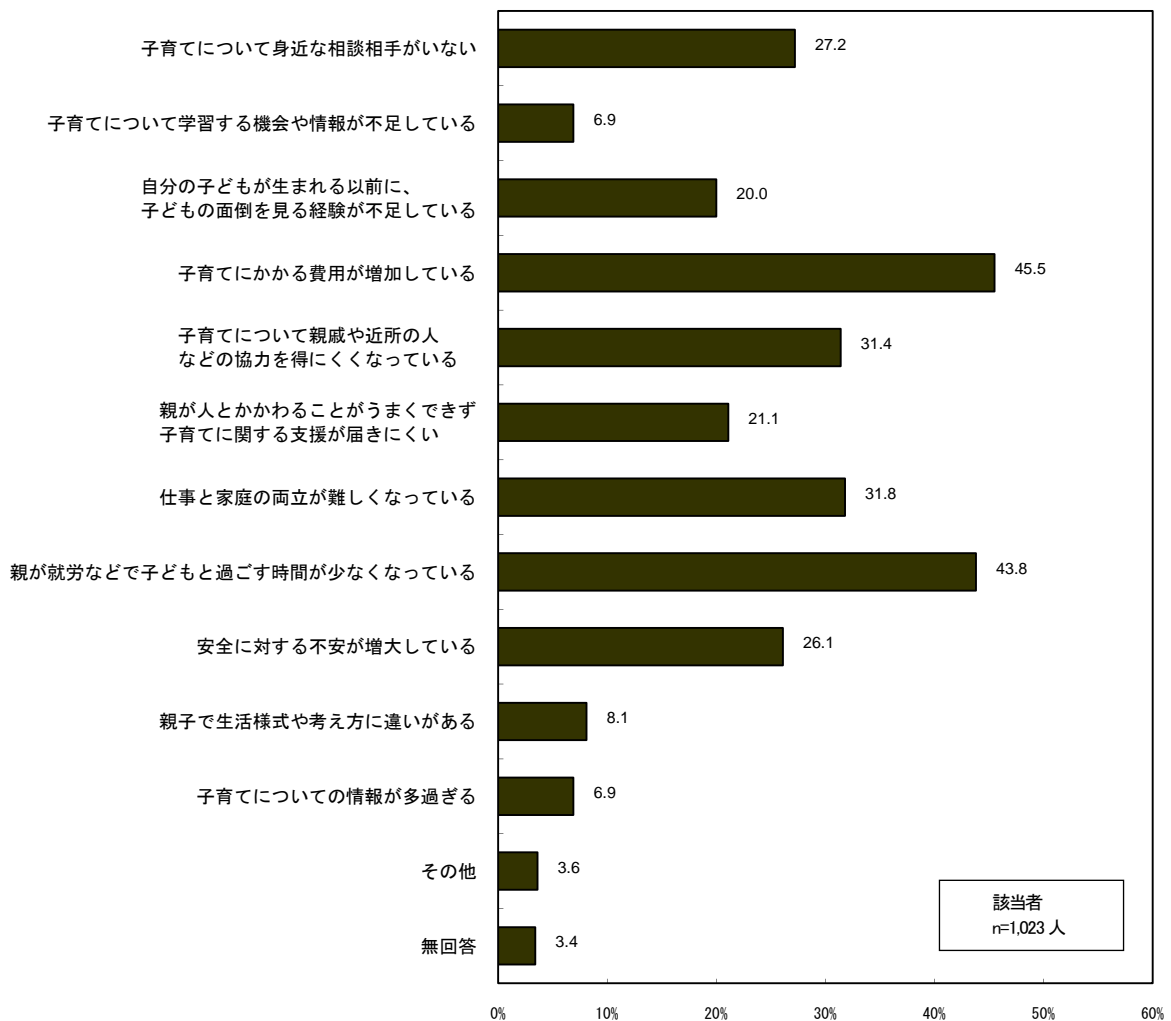
「あまり困難になっていないと思う」(9.0%)、「困難になっていないと思う」(6.2%)は、合わせて2割に満たない。

男女別で見ると、「困難になっていると思う」は、男性22.2%、女性23.4%、「ある程度困難になっていると思う」は男性39.9%、女性44.1%であり、女性の方が困難になっていると感じている割合は高い。

年代別で見ると、「困難になっていると思う」と「ある程度困難になっていると思う」を合わせた割合が最も高いのは50代(72.5%)で7割を超えている。

(5) 困難になっていると思う理由

問5.問4で、「1 困難になっていると思う」「2 ある程度困難になっていると思う」とお答えの方にかがいます。
「困難になっていると思う」「ある程度困難になっていると思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



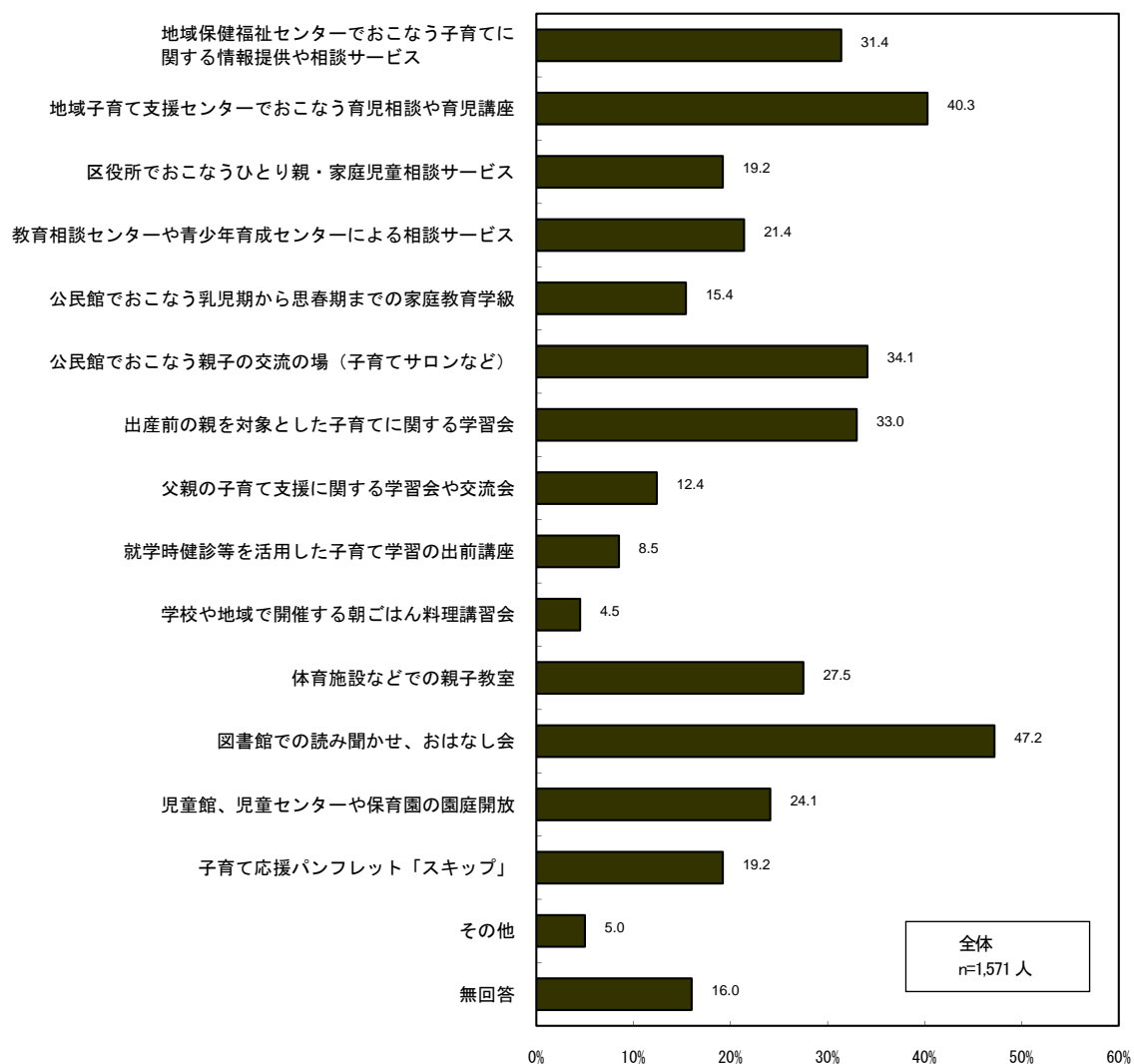
「子育てにかかる費用が増加している」
「親が子どもと過ごす時間が少なくなっている」と感じている人が4割以上

「子育てにかかる費用が増加している」と答えた人(45.5%)が最も多く半数近くを占める。次に「親が就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている」(43.8%)、「仕事と家庭の両立が難しくなっている」(31.8%)、「子育てについて親戚や近所の人などの協力を得にくくなっている」(31.4%)の順に続く。

「子育てについての情報が多過ぎる」(6.9%)、「子育てについて学習する機会や情報が不足している」(6.9%)「親子で生活様式や考え方に違いがある」(8.1%)と答えた人は1割に満たない。

(6) 家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について

問6. あなたは、家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について、どのようなものをご存知ですか。知っているものの番号に、いくつでも○をつけてください。(MA)



最もよく知られている「図書館での読み聞かせ、おはなし会」でも半数以下

「図書館での読み聞かせ、おはなし会」と答えた人（47.2%）が最も多く半数近くを占める。次に「地域子育て支援センターでおこなう育児相談や育児講座」（40.3%）、「公民館でおこなう親子の交流の場（子育てサロンなど）」（34.1%）、「出産前の親を対象とした子育てに関する学習会」（33.0%）、「地域保健福祉センターでおこなう子育てに関する情報提供や相談サービス」（31.4%）の順に続く。

「学校や地域で開催する朝ごはん料理講習会」（4.5%）、「就学時健診等を活用した子育て学習の出前講座」（8.5%）は1割に満たない。

「1. 家庭における教育力について」の総括

家庭において身につける力として特に大切なことは、「基本的な生活習慣」、「良いことと悪いことを判断する力」、「他人に対する思いやりの心」が上位の三つを占めている。そのほか、「社会生活に必要なルールやマナー」も高い数値を示している。この結果は、平成19年度に国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（以下、「国社研」という。）が実施した『家庭教育支援に係る地域の教育力の活性化に関する調査研究報告書』による調査結果と同様の傾向を示している。教育基本法第10条では、家庭の役割として「生活のために必要な習慣を身につけさせる」、「自立心を育成する」、「心身の調和のとれた発達を図る」が規定されている。調査の結果から「生活のために必要な習慣」は家庭において身につける力として特に大切であると思っている人（54.9%）が5割以上で多いが、「自立心を育成する」や「心身の調和のとれた発達を図る」に関する項目は2割以下であり、特に大切であると思っている人の割合は少なかった。

家庭の教育力については、「低下したと思う」、「ある程度低下したと思う」を合わせて約6割（59.5%）という結果であった。この結果は、国社研の調査結果（83.0%）に比べて2割以上も少ない。また、「低下したと思わない」、「あまり低下したと思わない」を合わせた人が国社研調査では1.9%だったのに対して、新潟市では15.3%と高くなっていた。これらのことから、新潟市は全国に比べて、家庭の教育力が低下したと思っている人が少なく、低下したと思わない人が多いと言える。年代別では、30歳～50歳代が低下していると感じている人が多く、いずれも6割を超えている。地域別では、中央区や西区が低下したと感じている人が多く、秋葉区、西蒲区がやや少ない。家庭の教育力と地域の教育力との関連では、「家庭の教育力が低下した」と思っている人は、「自身の子ども時代と比べて地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみが低下した」と思っているという傾向が見られた。（22ページ グラフ参照）

家庭の教育力が低下したと思う理由では、国社研調査と同様に、「過保護、過干渉な親が増えている」、「しつけや教育の仕方がわからない親が増えている」、「しつけや教育を学校などの教育機関に依存している」が上位三つを占めている。そのほか、「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」が4割を超えて高い数値を示している。年代別では、20歳代、30歳代が「過保護、過干渉な親が増えている」を理由に挙げている人が6割を超えて多く、若い世代が「過保護、過干渉な親が増えている」を家庭の教育力が低下した理由として考えていることがうかがえる。また、50歳代、60歳代は、「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」が5割近くあり、他の年代に比べて高くなっている。団塊の世代（61歳～63歳）では、「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」が5割を超えて高くなっている。これらのことから、50歳代以上の人たちは「家族間の関わりが少なくなってきた」を家庭の教育力が低下した理由として考えていることがうかがえる。

子育ての状況では、「困難になっていると思う」、「ある程度困難になっていると思う」を合わせて65.1%で、約3分の2の人が自分の子ども時代に比べて子育てが困難になっていると感じている。性別では、女性が男性に比べて困難に感じている人が多く、5ポイント高くなっている。年代別では、50歳代が困難に感じている人が7割を超えて多く、続いて40歳代（67.9%）、60歳代（65.5%）の順になっている。最も低いのは20歳代の57.4%であった。地域別では、南区（71.0%）と東区（70.1%）が困難になっていると感じている人が多く、どちらも7割を超えていた。それに対して、秋葉区は58.6%で最も少なかった。

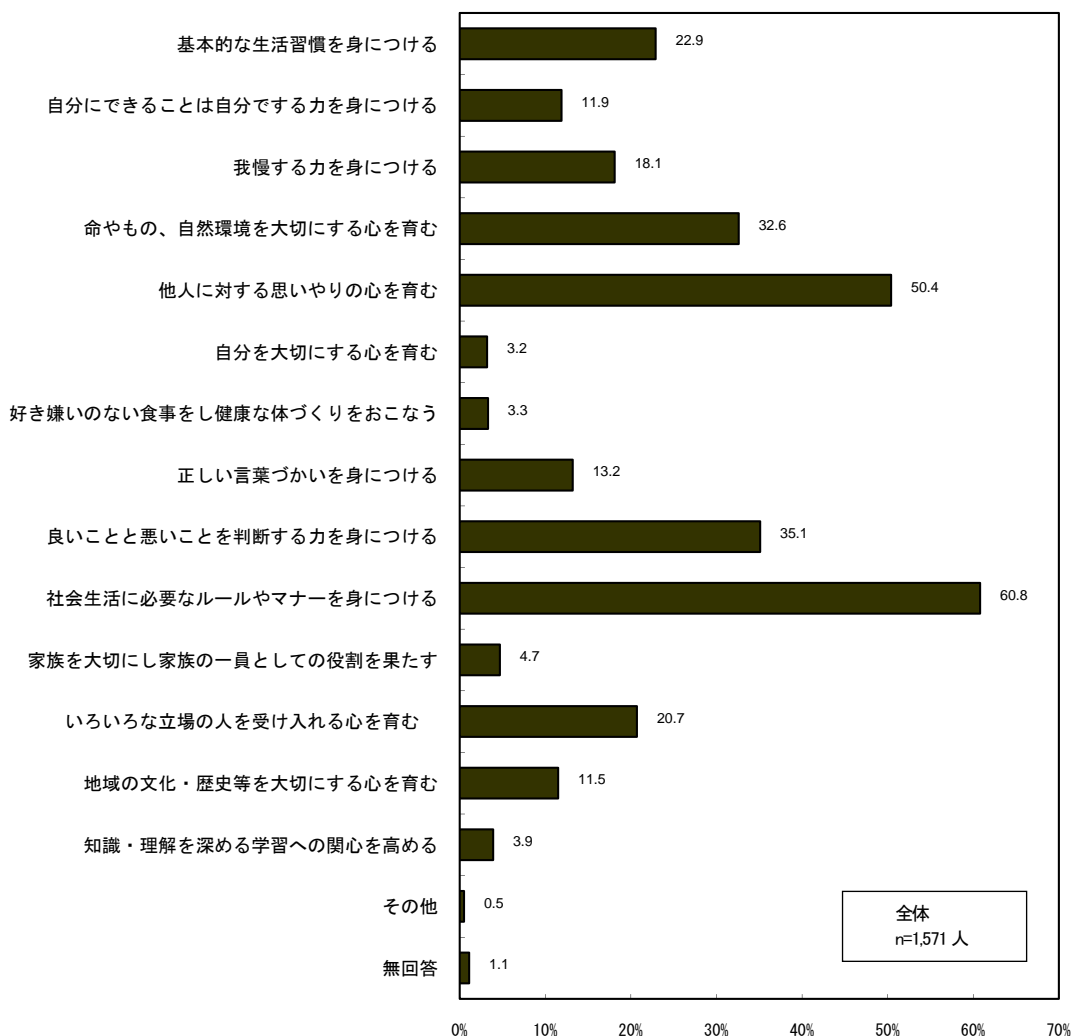
子育ての状況が困難になっている理由では、「子育てにかかる費用が増加している」、「親の就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている」、「仕事と家庭の両立が難しくなっている」、「子育てについて親戚や近所の人などの協力を得にくくなっている」を挙げている人が多かった。性別では、女性は「子育てにかかる費用が増加している」(47.9%)を理由に挙げている人が最も多かったのに対して、男性は「親の就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている」(45.9%)が最も多かった。また、「安全に対する不安が増大している」に関しては、女性(31.1%)が男性(19.1%)に比べて12ポイントも高くなっている。年代別では、40歳代が「子育てにかかる費用が増加している」を理由に挙げている人が5割を超えて最も多く、30歳代がそれに続いている。また、「親戚や近所の人などの協力が得にくくなっている」は、20歳代が45.5%で最も多い。地域別では、「子育てにかかる費用が増加している」については、南区(54.5%)、西蒲区(53.7%)、東区(50.3%)が5割を超えているのに対して、中央区は36.8%で約15ポイントも少なかった。「子育てについて身近な相談相手がいない」については、中央区(31.1%)、西区(30.2%)が3割を超えているのに対して、西蒲区(17.1%)、南区(18.2%)は約12ポイント少なくなっている。さらに、「親戚や近所の人などの協力が得にくくなっている」は、西区(36.6%)、東区(35.7%)に比べて南区(24.2%)、西蒲区(24.4%)が11ポイント少なく、「安全に対する不安が増大している」では、東区(29.2%)に比べて江南区(18.0%)が11ポイント少なくなっている。このように、子育ての状況が困難になっている理由の項目で、区ごとに数値の違いが多く見られた。団塊の世代(61歳~63歳)では、「親の就労で子どもと過ごす時間が少ない」を理由に挙げている人が5割を超えて多かった。

新潟市がおこなっている施策の周知については、「図書館での読み聞かせ、おはなし会」が47.2%で最も多かったが、どの施策も半数以下の結果であり、施策が十分に周知されていない実態が浮き彫りになった。性別では、女性がすべての施策で男性に比べて高い数値を示している。年代別では、30歳代で「図書館での読み聞かせ、おはなし会」(59.6%)、「地域子育て支援センターでおこなう育児相談や育児講座」(54.0%)、40歳代で「図書館での読み聞かせ、おはなし会」(57.1%)がそれぞれ5割を超えているのを始め、30歳代と40歳代は、全体的に他の年代に比べて周知が図られている。地域別では、施設の立地場所にも関係するが、区によって周知に多少ばらつきが見られた。

2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて

(1) 地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なこと

問 7. あなたは、普段、生活をしている地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



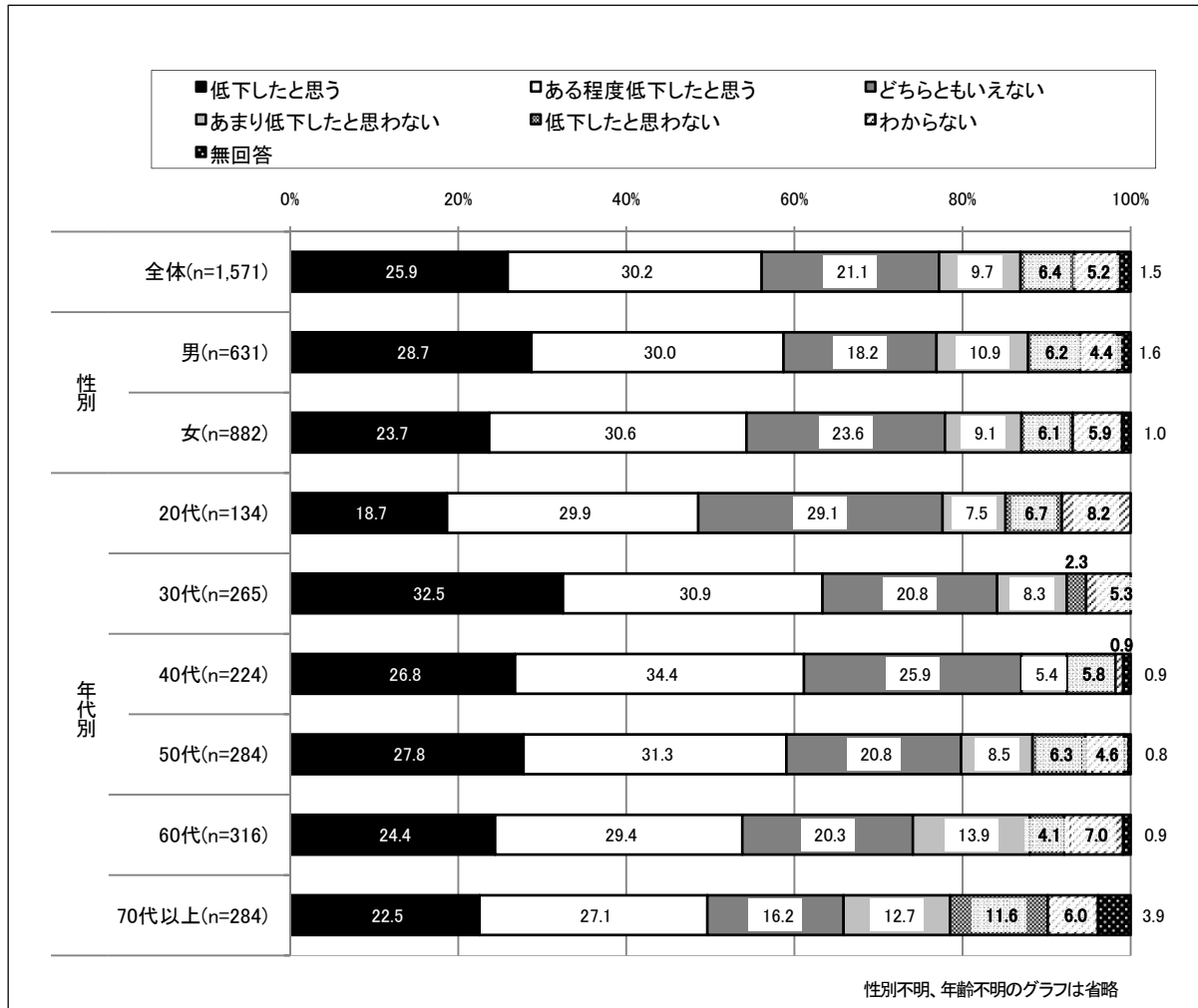
「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」ことが
特に大切だと思っている人が6割以上

「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」と答えた人 (60.8%) が最も多く6割を超す。次に「他人に対する思いやりの心を育む」(50.4%) が多く半数を超し、「良いことと悪いことを判断する力を身につける」(35.1%) 「命やもの、自然環境を大切にすることを育む」(32.6%) の順に多い。

「自分を大切にすることを育む」(3.2%)、「好き嫌いのない食事をし健康な体づくりをおこなう」(3.3%)、「知識・理解を深める学習への関心を高める」(3.9%)、「家族を大切に家族の一員としての役割を果たす」(4.7%) は5%に満たない。

(2) 自身の子ども時代と比べての、地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみ

問8. 地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみは、現在ご自身の子ども時代と比べてどのようだと思いますか。
あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



6割近くの人が地域全体で子どもを育て守る雰囲気やしくみに低下を感じている

「ある程度低下したと思う」と回答した人 (30.2%) が最も多かった。「低下したと思う」は 25.9%。6割近くの人が低下していると感じている。

「あまり低下したと思わない」(9.7%)、「低下したと思わない」(6.4%) は、合わせても2割に満たない。

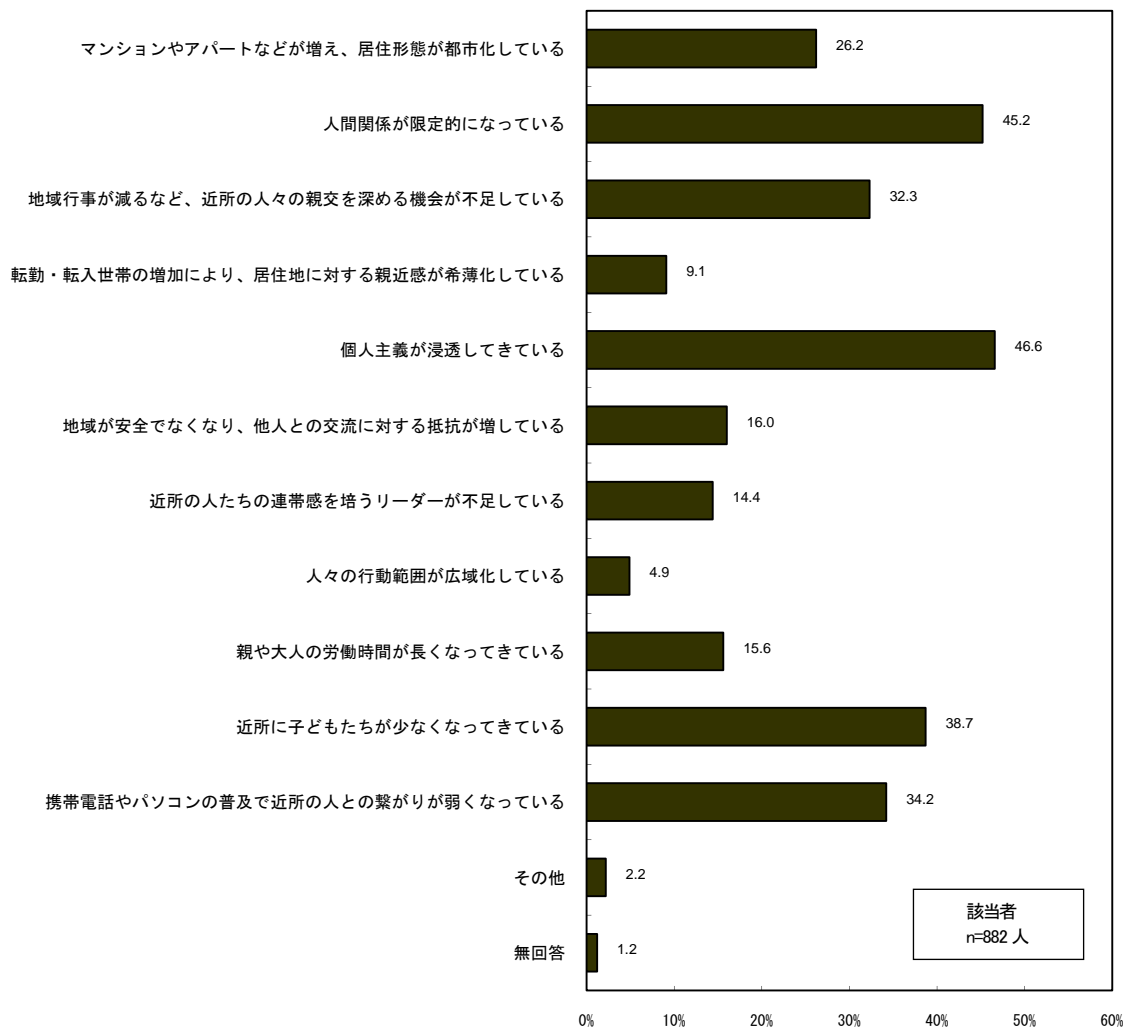
男女別で見ると、「低下したと思う」で男性 28.7%、女性 23.7%と男性の方が高く、「どちらともいえない」では男性 18.2%、女性 23.6%で女性の方が高い。「ある程度低下した」「あまり低下したと思わない」「低下したと思わない」では男女に差はほとんどない。

年代別で見ると、「ある程度低下したと思う」について、40代 (34.4%) と 70代以上 (27.1%) との間で差があった。30代では、「低下したと思う」(32.5%) が「ある程度低下したと思う」(30.9%) より多かった。

(3) 低下したと思う理由

問9.問8で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にかがいます。

「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



「個人主義が浸透」や「限定的な人間関係」が理由だと思っている人が4割以上

「個人主義が浸透してきている」が最も多く 46.6%。次に「人間関係が限定的になっている」が 45.2%と続く。次いで「近所に子どもたちが少なくなっている」(38.7%)、「携帯電話やパソコンの普及で近所の人との繋がりが弱くなっている」(34.2%)、「地域行事が減るなど、近所の人々の親交を深める機会が不足している」(32.3%)の順に続く。

「人々の行動範囲が広域化している」(4.9%)、「転勤・転入世帯の増加により、居住地に対する親近感が希薄化している」(9.1%)は1割に満たない。

「個人主義が浸透してきている」では、20代が30.8%と最も低く、50代(53.6%)、40代(48.9%)は高い。

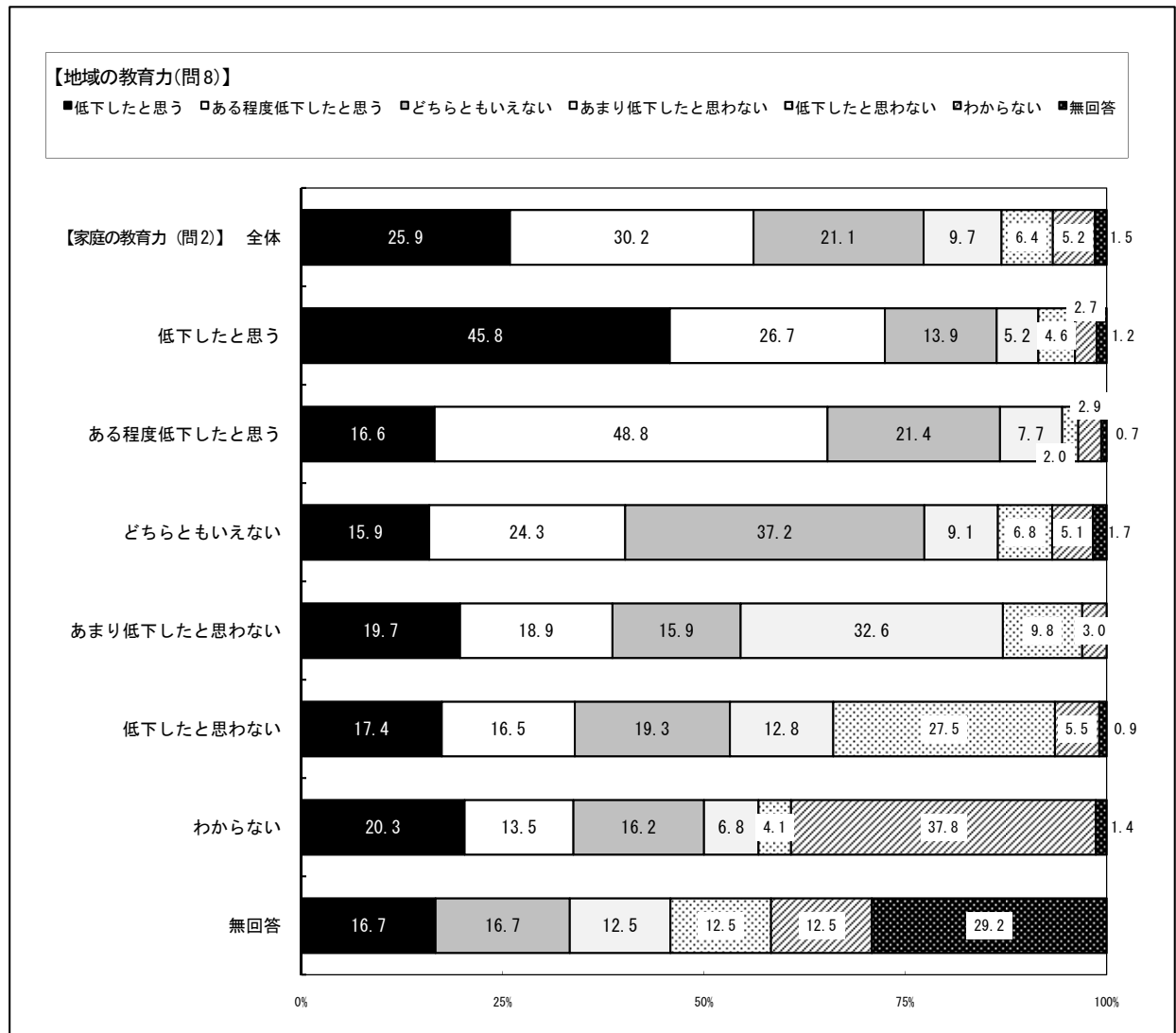
地域の教育力に対する意識と家庭の教育力に対する意識の関連

「家庭の教育力が低下した」と「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみが低下した」と両方とも「低下した」と回答している人が 45.8%で、「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみがある程度低下した」の 26.7%を合わせると 72.5%である。

「家庭の教育力がある程度低下した」と回答し、「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみ」が「低下した」「ある程度低下した」の両者を合わせると 65.4%である。

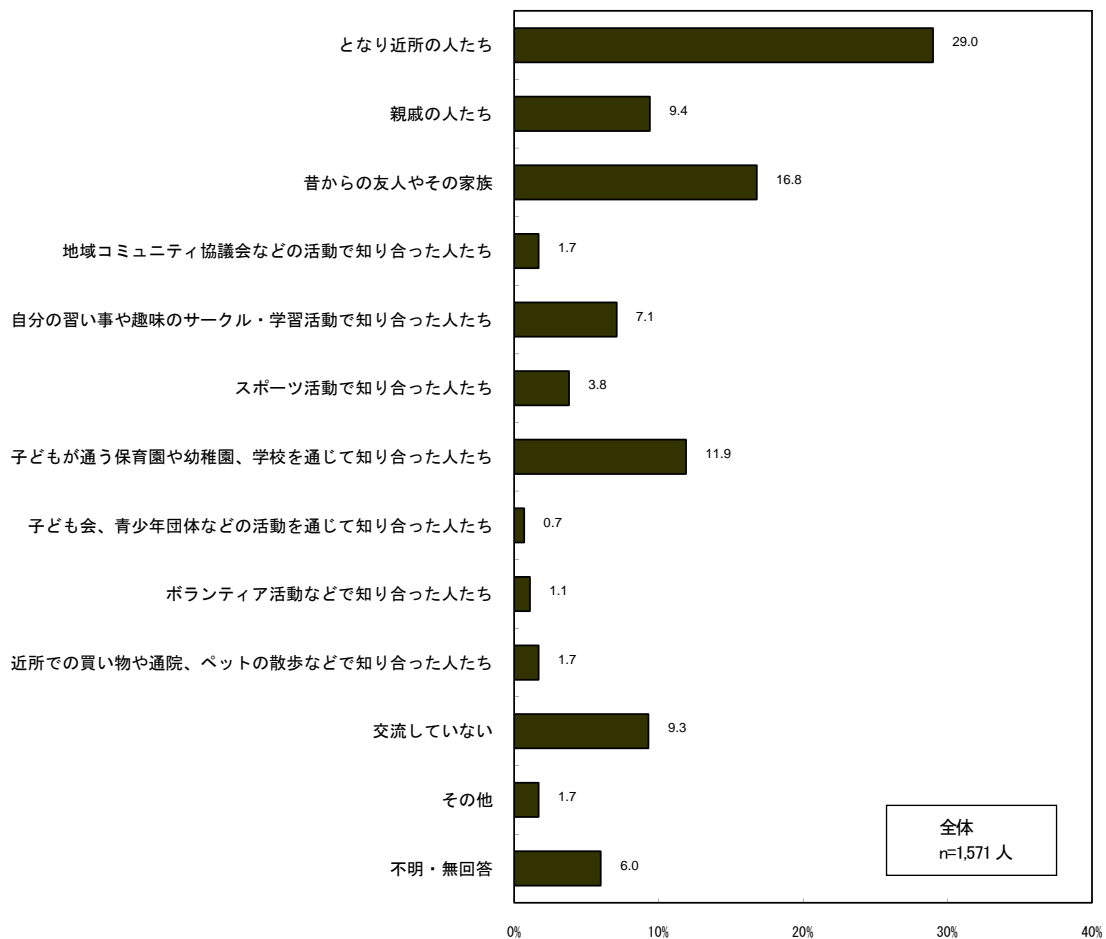
問8. 地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみは、現在、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

問2. 今の家庭の教育力は、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。



(4) 普段交流する人

問10. あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。
もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



住んでいる地域の人と普段「交流していない」人は1割弱

最も多いのは「となり近所の人たち」と答えた人だが、29.0%に留まっている。次に「昔からの友人やその家族」(16.8%)、「子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち」(11.9%)の順に続く。

「交流していない」と答えた人は9.3%と1割に満たない。

「となり近所の人たち」と答えた人を年代別で見ると、20代(19.4%)と30代(16.2%)が低く、40代(20.5%)、50代(34.2%)、60代(34.2%)、70代以上(41.5%)と年代が増すごとに高くなる。

普段交流する人と家庭の教育力に対する意識との関連

「家庭の教育力」について「あまり低下したと思わない」と答えた人で、普段交流することが多いのは「となり近所の人たち」と答えた人は36.4%であった。「低下したと思う」と答えた人で「となり近所の人」と答えた人は28.4%であった。

問 10. あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

問 2. 今の家庭の教育力は、ご自身の子ども時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	全体 (%)	低下したと思う	ある程度低下したと思う	どちらともいえない	あまり低下したと思わない	低下したと思わない	わからない
となり近所の人たち	29.0	28.4	25.8	32.1	36.4	30.3	25.7
親戚の人たち	9.4	8.5	11.7	7.4	9.1	7.3	14.9
昔からの友人やその家族	16.8	17.8	16.3	17.2	9.8	19.3	21.6
地域コミュニティ協議会などの活動で知り合った人たち	1.7	2.3	1.3	1.4	2.3	-	1.4
自分の習い事や趣味のサークル・学習活動で知り合った人たち	7.1	7.5	7.7	5.7	7.6	7.3	4.1
スポーツ活動で知り合った人たち	3.8	3.5	4.6	2.7	4.5	3.7	2.7
子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち	11.9	9.3	15	14.2	9.8	12.8	5.4
子ども会、青少年団体などの活動を通じて知り合った人たち	0.7	0.4	0.9	0.7	1.5	0.9	-
ボランティア活動などで知り合った人たち	1.1	0.6	2	0.7	0.8	0.9	2.7
近所での買い物や通院、ペットの散歩などで知り合った人たち	1.7	2.1	1.1	1.4	3	0.9	2.7
交流していない	9.3	10.4	8.6	8.4	7.6	10.1	12.2
その他	1.7	2.3	1.3	1	1.5	1.8	2.7

「無回答」は省略

普段交流する人と地域の教育力に対する意識との関連

「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしぐみ」が「あまり低下したと思わない」人で、普段交流することが多いのは「となり近所の人たち」と答えた人は、40.1%、「低下したと思わない」で「となり近所の人たち」と答えた人は41.0%であった。「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしぐみ」が「低下したと思う」人で、普段交流することが多いのは「となり近所の人たち」と答えた人は、25.1%であった。

問10. あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

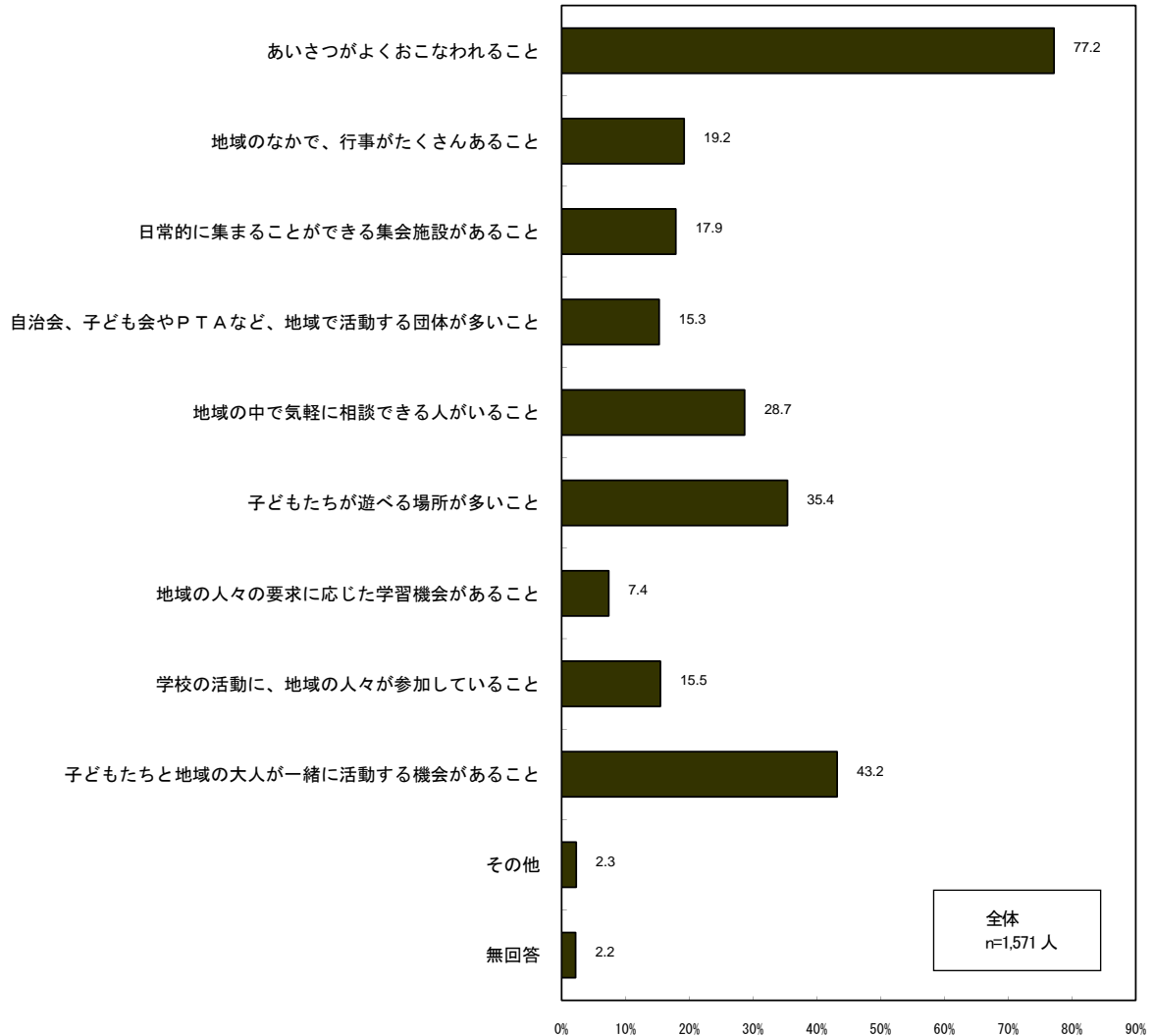
問8. 地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしぐみは、現在、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	全体	低下したと思う	ある程度低下したと思う	どちらともいえない	あまり低下したと思わない	低下したと思わない	わからない
(%)							
となり近所の人たち	29.0	25.1	25.7	30.7	40.1	41.0	28
親戚の人たち	9.4	11.8	11.2	7.2	7.9	4.0	7.3
昔からの友人やその家族	16.8	17.7	17.7	17.8	13.2	11.0	19.5
地域コミュニティ協議会などの活動で知り合った人たち	1.7	1.7	1.7	0.6	1.3	4.0	2.4
自分の習い事や趣味のサークル・学習活動で知り合った人たち	7.1	7.6	7.2	7.2	8.6	3.0	6.1
スポーツ活動で知り合った人たち	3.8	4.7	3.6	3.9	3.9	3.0	1.2
子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち	11.9	11.1	13.7	13.9	11.2	9.0	4.9
子ども会、青少年団体などの活動を通じて知り合った人たち	0.7	0.5	0.8	0.9	-	2.0	-
ボランティア活動などで知り合った人たち	1.1	1	1.7	0.9	1.3	-	1.2
近所での買い物や通院、ペットの散歩などで知り合った人たち	1.7	2.9	1.3	0.9	2	1.0	1.2
交流していない	9.3	9.1	9.3	8.7	5.9	10.0	18.3
その他	1.7	1.7	1.9	0.6	0.7	5.0	2.4

「無回答」は省略

(5) 住民どうしのつながりが深まるために必要なこと

問11. あなたは、あなたが住んでいる地域で、住民どうしのつながりが深まるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



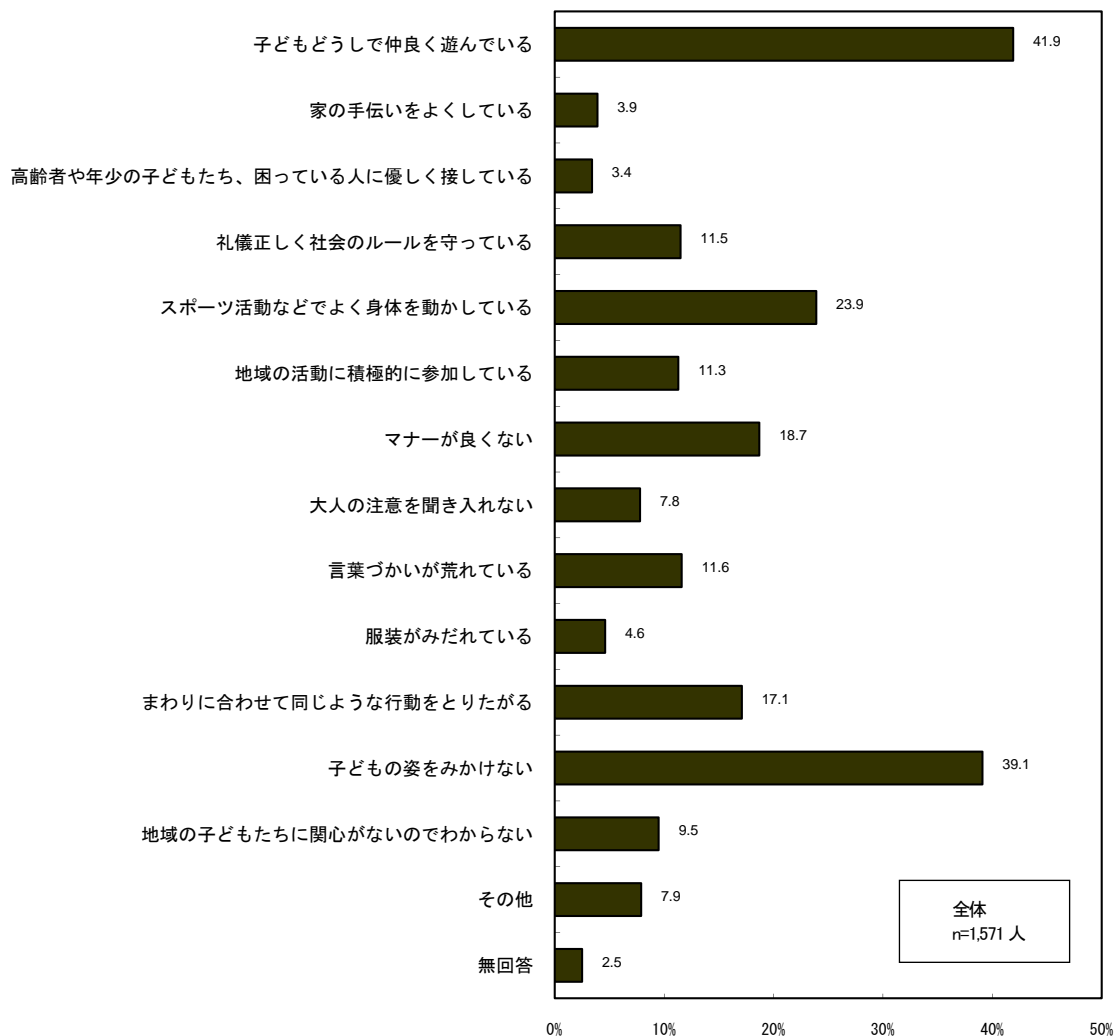
「あいさつがよくおこなわれること」が必要だと思っている人が8割近く

「あいさつがよくおこなわれること」と答えた人(77.2%)が突出して多く8割近くを占める。次に、「子どもたちと地域の大人と一緒に活動する機会があること」(43.2%)、「子どもたちが遊べる場所が多いこと」(35.4%)、「地域の中で気軽に相談できる人がいること」(28.7%)と続く。

「あいさつがよくおこなわれること」と答えた人を年代で見ると、20代(85.8%)、60代以上(84.5%)で高く、最も低いのは40代で69.2%であった。

(6) 地域の子どもの様子

問12. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもの様子について、どのようなと感じていますか。
あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



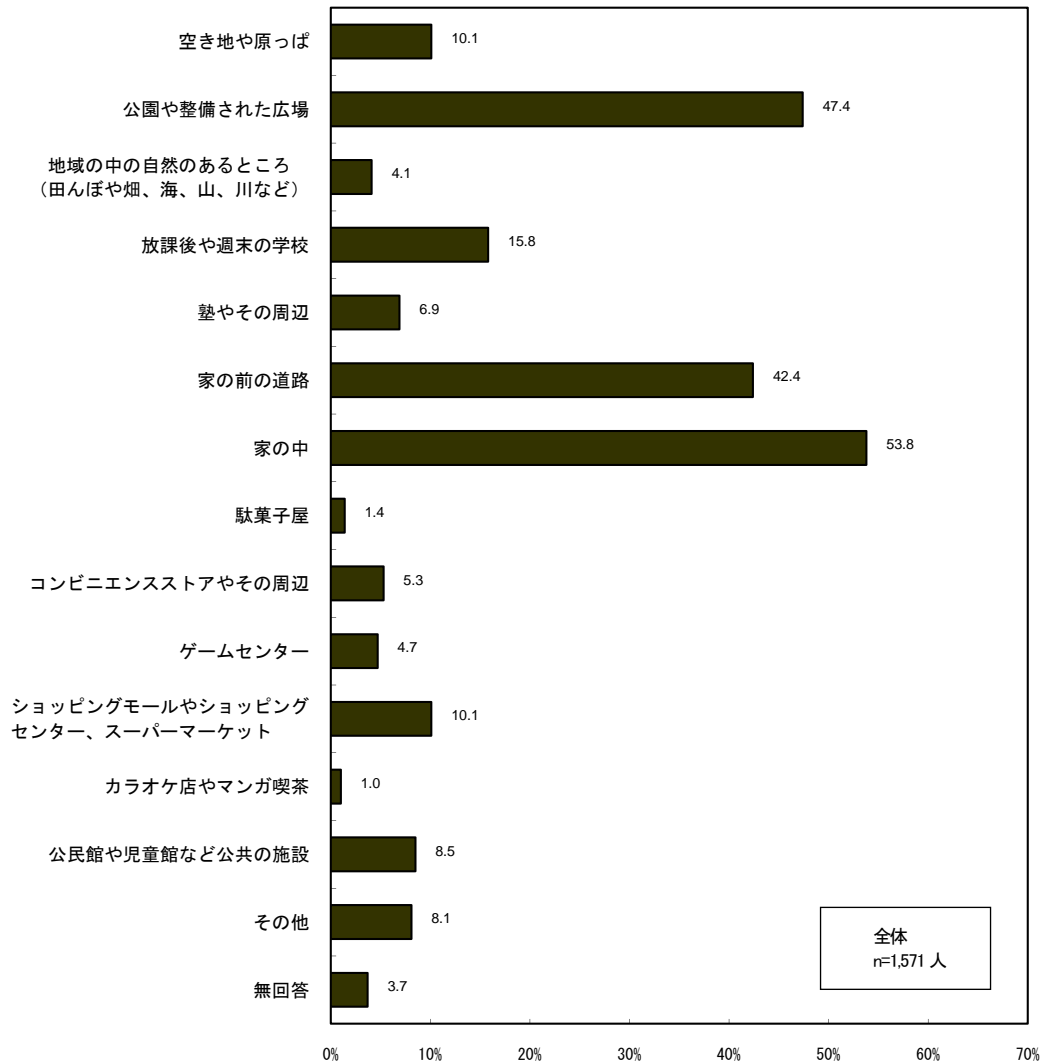
「子どもどうして仲良く遊んでいる」と「子どもの姿をみかけない」が ともに約4割

「子どもどうして仲良く遊んでいる」と答えた人が41.9%と最も多かったが、次に「子どもの姿をみかけない」と答えた人が39.1%と差が無く続く。その次に「スポーツ活動などでよく身体を動かしている」(23.9%)、「マナーが良くない」(18.7%)と続く。

年代別には「子どもどうして仲良く遊んでいる」について、30代が48.3%と最も高く、50代が33.1%と最も低い。「スポーツ活動などでよく身体を動かしている」については、40代が29.9%と最も高く、20代が11.9%と最も低い。「マナーが良くない」については20代が29.1%で最も高く、60代が14.9%と最も低い。

(7) 子どもたちの、おもな遊び場

問13. あなたが住んでいる地域で、子どもたちはおもにどこで遊んでいますか。
あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



子どもたちの遊び場は
「家中」「公園や整備された広場」「家の前の道路」

「家中」と答えた人 (53.8%) が半数を超す。次に「公園や整備された広場」(47.4%)、「家の前の道路」(42.4%) の順に続く。その次に多いのが、「放課後や週末の学校」だが 15.8% と前述の3つの場所とは大きく差がある。他の場所はさらに少ない。

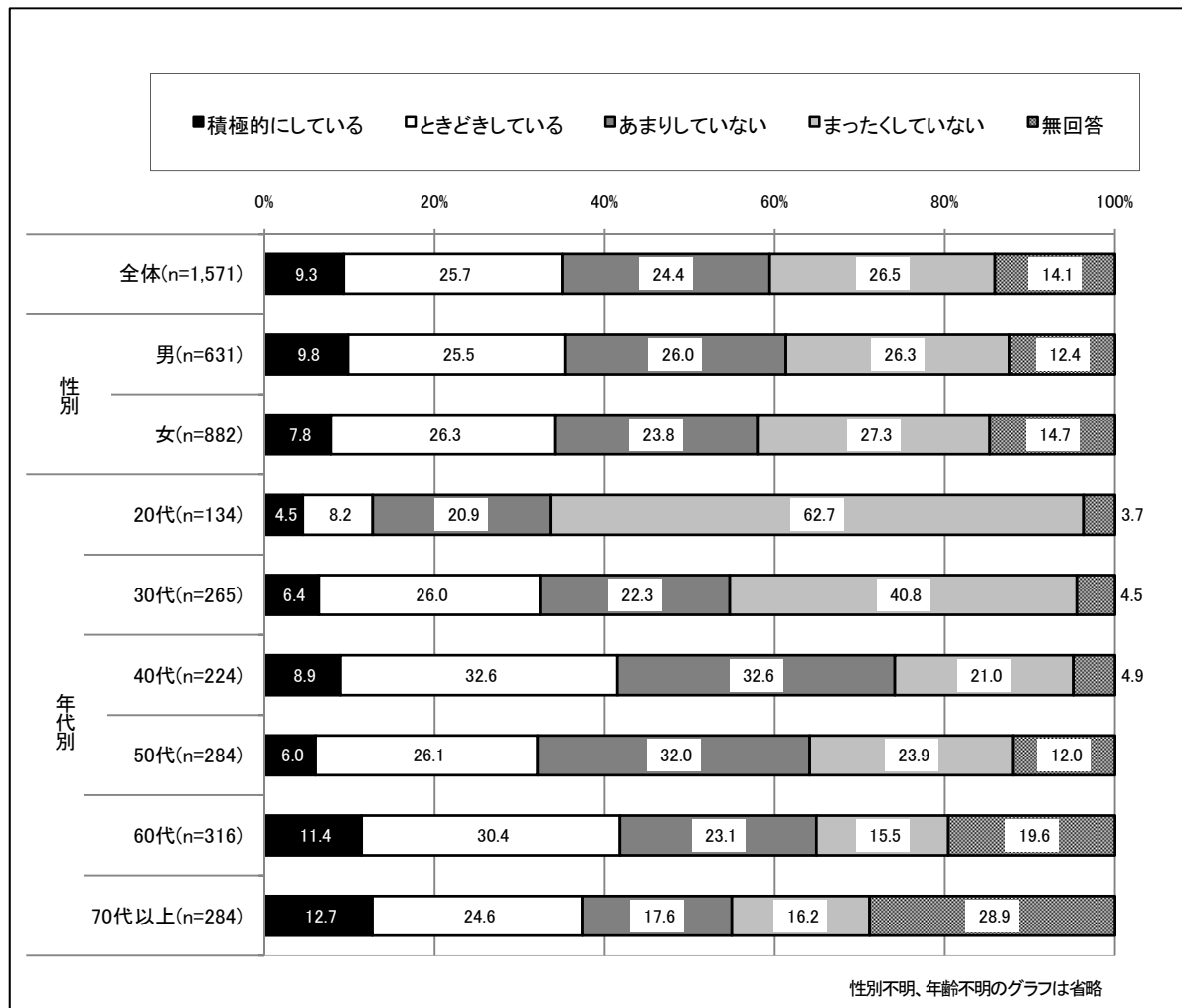
「家中」と答えた年代を見ると、40代が70.1%と最も多く、20代(44.8%)、60代(47.8%)と少なかった。

(8) 地域の子どもたちとの、普段の接し方

① 悪いことをしたとき、しつこく注意したりする

問 14-1. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

① 悪いことをしたとき、しつこく注意したりする (SA)



約5割の人がしつこく注意したり「していない」

「まったくしていない」と回答した人(26.5%)が最も多かった。「あまりしていない」は24.4%。約半数の人が「していない」と答えている。

「積極的にしている」と答えた人は9.3%と1割にも満たない。「ときどきしている」(25.7%)と合わせても35.0%と、地域の子どもたちが悪いことをしているのを見かけたとき、しつこく注意している人は約3人に1人に留まっている。

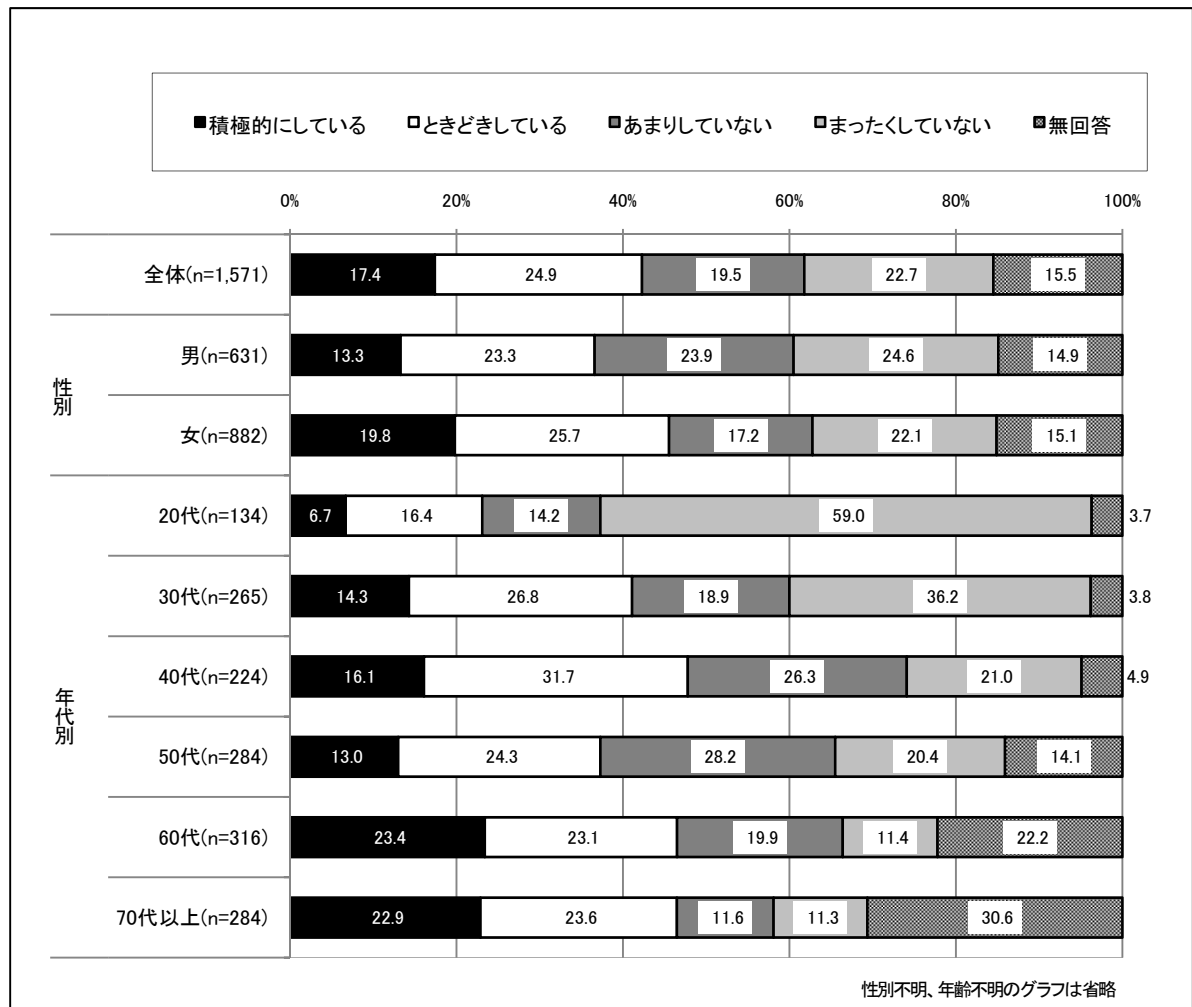
男女別では、どの選択肢でも大きな差はなかった。

年代別では、「まったくしていない」について、20代(62.7%)、30代(40.8%)が多く、60代(15.5%)、70代以上(16.2%)は少ない。

② 良いことをしたとき、ほめる

問 14-1. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

② 良いことをしたとき、ほめる (SA)



ほめることが「ある」人と「ない」人が、ほぼ同じ割合

「ときどきしている」と回答した人 (24.9%) が最も多かった。「積極的に行っている」と答えた人は17.4%で、合わせると42.3%の人が、ほめることが「ある」と回答した。

「まったくしていない」と回答した人は22.7%。「あまりしていない」は19.5%。合わせると42.2%と、ほめることが「ある」と答えた人とほぼ同じ割合となった。

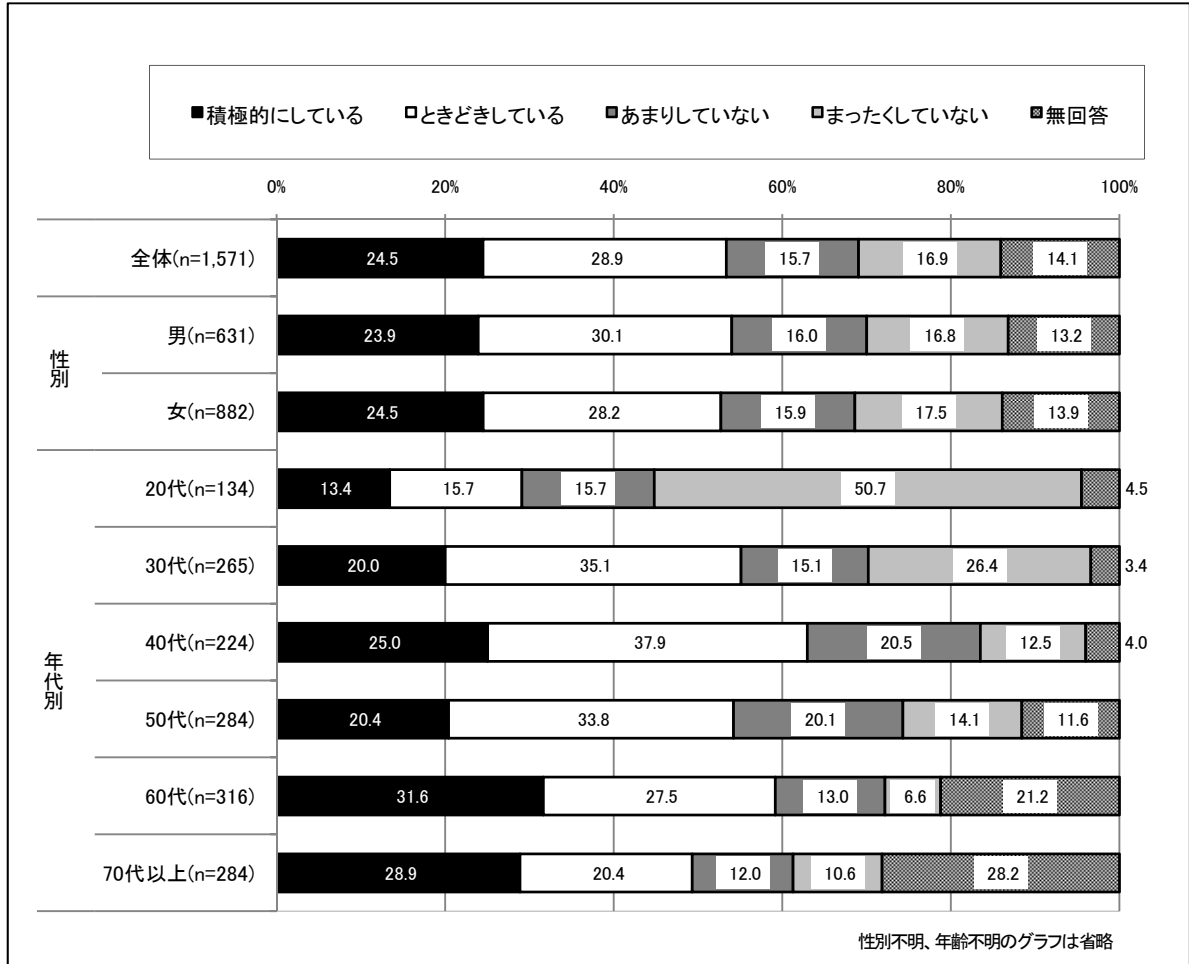
男女別に見ると、ほめることが「ある」と回答した人は女性の方が多く、「あまりしていない」「まったくしていない」は男性の方が多い。

年代別に見ると、ほめることが「ある」と回答した人は、40代 (47.8%)、60代 (46.5%)、70代以上 (46.5%) が多い。「まったくしていない」と回答した人は、20代が59.0%と多く、60代 (11.4%)、70代以上 (11.3%) との差が大きい。

③ 危険な行動をみたとき、注意する

問 14-3. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

③ 危険な行動をみたとき、注意する (SA)



5割以上が「危険な行動をみたとき、注意する」ことがある

「ときどきしている」と回答した人 (28.9%) が最も多かった。「積極的にしている」と答えた人は24.5%で、合わせると53.4%の人が、危険な行動をみたとき、注意することが「ある」と回答した。

「まったくしていない」と回答した人は16.9%。「あまりしていない」は15.7%。合わせると32.6%となった。

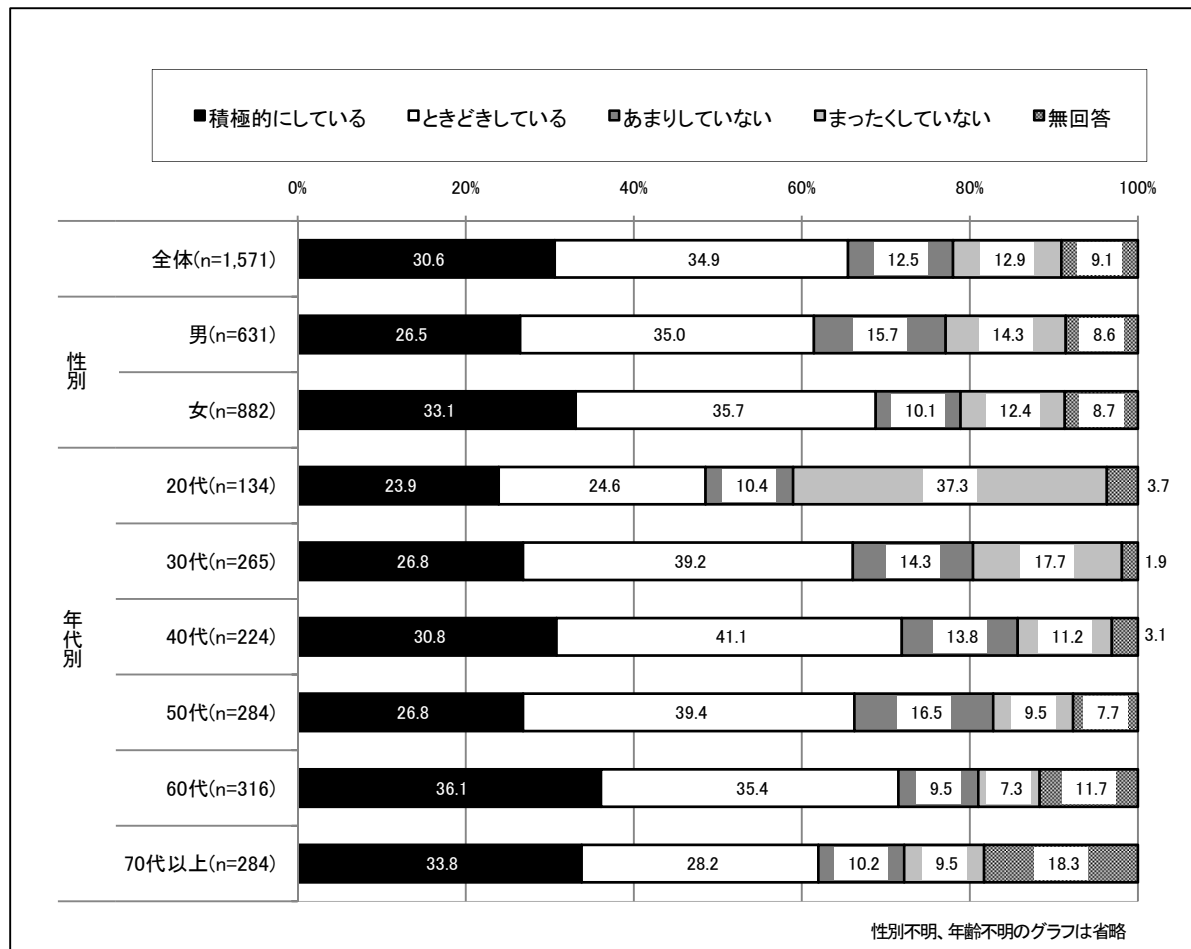
男女別では、どの選択肢でも大きな差はなかった。

年代別に見ると、「ときどきしている」と「積極的にしている」を合わせると、40代 (62.9%)、60代 (59.1%) が多く、20代は29.1%と少ない。「まったくしていない」と回答した人は、20代が50.7%と多く、60代 (6.6%) との差が大きい。

④ 道であったとき、あいさつする

問 14-4. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

④ 道であったとき、あいさつする (SA)



「あいさつをする」人が約3人に2人

「ときどきしている」と回答した人 (34.9%) が最も多かった。「積極的にしている」と答えた人は30.6%で、合わせると65.5%の人が、「あいさつをする」ことがある。

「まったくしていない」と回答した人は12.9%。「あまりしていない」は12.5%。合わせると25.4%となった。

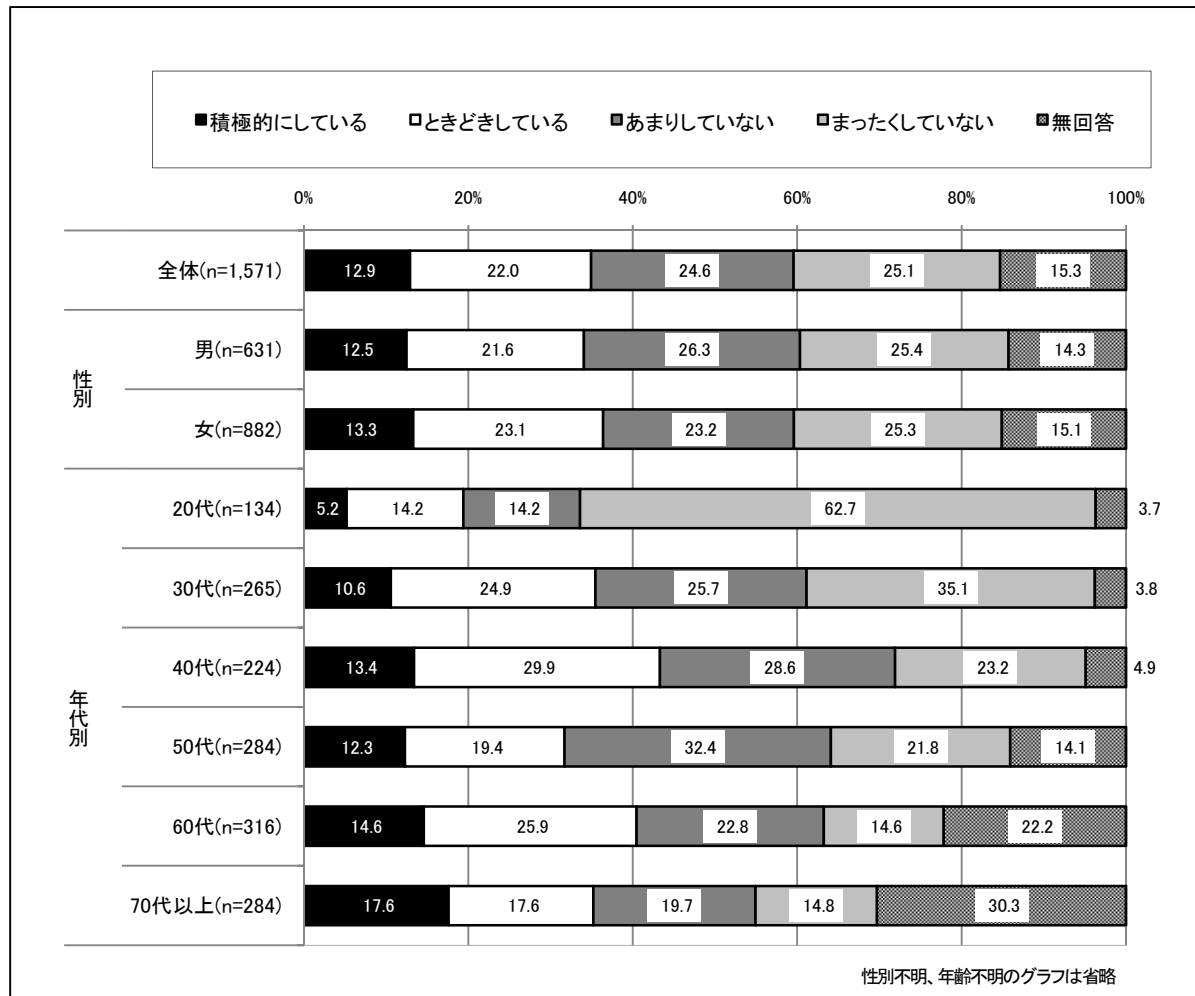
男女別で見ると、「ときどきしている」と回答した人で差はないが、「積極的にしている」と答えた男性26.5%に対して、女性33.1%と女性の方があいさつをよくしている。

年代別で見ると、60代、70代以上では「積極的にしている」人が多く、「ときどきしている」人が多いのは40代 (41.1%)、50代 (39.4%)、30代 (39.2%) であった。

⑤ 様子が気になったとき、声をかける

問 14-5. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

⑤ 様子が気になったとき、声をかける (SA)



約半数の人は「様子が気になったとき、声をかける」ことはない

「まったくしていない」と回答した人 (25.1%) が最も多かった。「あまりしていない」と答えた人は24.6%で、合わせると49.7%の人が、様子が気になったとき、声をかけることは「ない」と答えている。

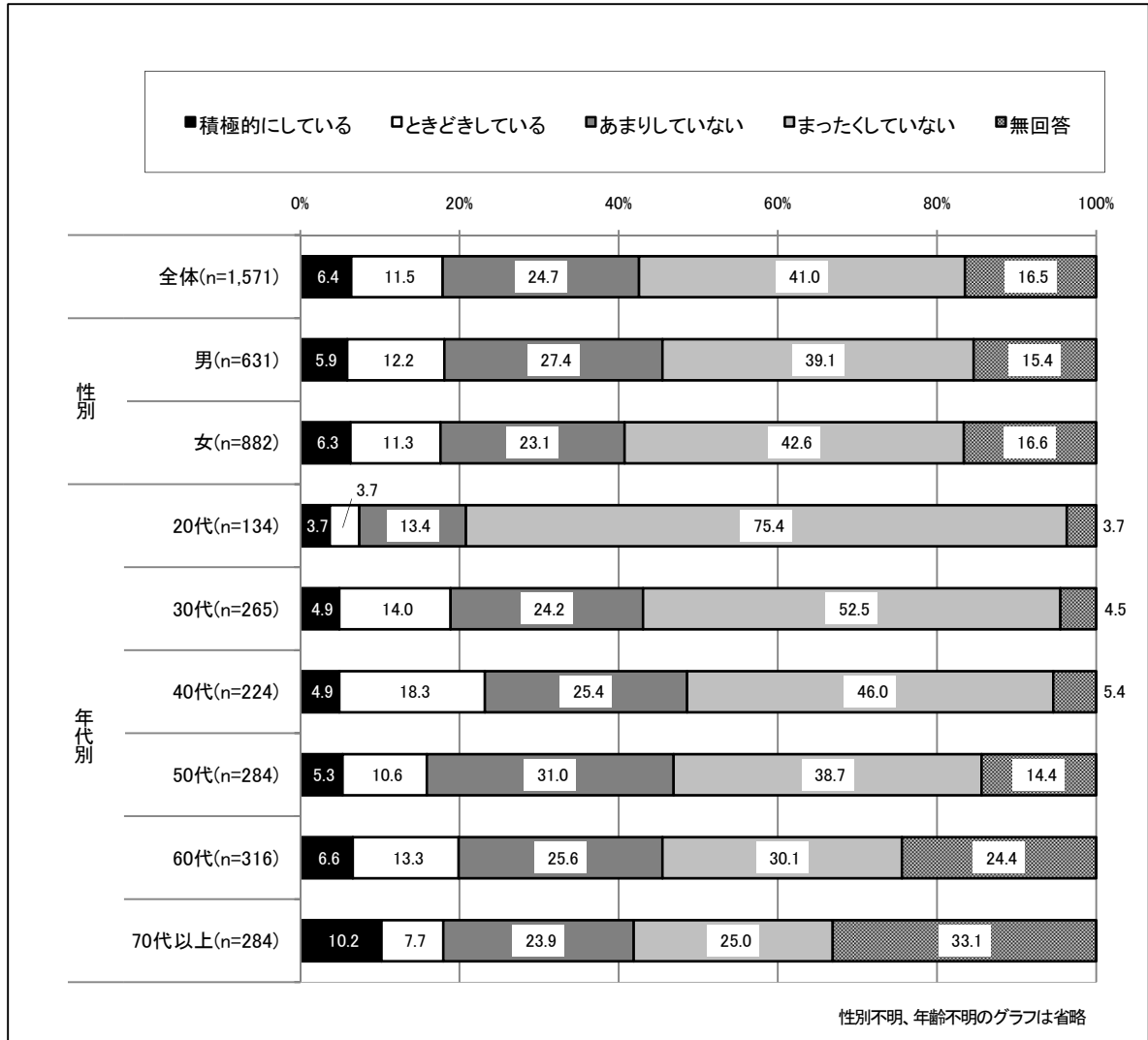
「積極的にしている」と回答した人は12.9%。「ときどきしている」は22.0%。合わせると34.9%となった。

年代別に見ると、「まったくしていない」と回答した人は20代で62.7%と最も多く、60代(14.6%)、70代以上(14.8%)が少ない。「積極的にしている」と回答した人は、20代(5.2%)が最も少ないのに対して、最も多いのは70代以上(17.6%)であった。

⑥ 困っているとき、相談にのる

問 14-6. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

⑥ 困っているとき、相談にのる (SA)



約3人に2人は困っているとき、相談にのることは「ない」

「まったくしていない」と回答した人(41.0%)が最も多かった。「あまりしていない」と答えた人は24.7%で、合わせると65.7%の人が、困っているとき、相談にのることは「ない」と答えている。

「積極的にしている」と回答した人は6.4%。「ときどきしている」は11.5%。合わせても17.9%に留まっている。

年代別に見ると、「ときどきしている」と「積極的にしている」を合わせると、40代(23.2%)、60代(19.9%)が多く、20代は7.4%と少ない。「まったくしていない」と回答した人は、20代が75.4%と多く、70代以上(25.0%)との差が大きい。

「2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて」の総括

地域社会において子どもたちが身につける力の大切さについて高い数値となったのは、「社会生活に必要なルールやマナー」(60.8%)及び「他人に対する思いやりの心」(50.4%)「基本的な生活習慣」(22.9%)など社会秩序を習得させることに重点を置く項目が多くみられる。それに対して、「自分を大切にすることを育む」は3.2%、「知識・理解を深める学習への関心を高める」は3.9%、「地域の文化・歴史等を大切にすることを育む」は11.5%で、自己実現やそのための学習に対する項目が低い。

「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」と答えた人の年代を見ると、20代(66.4%)、30代(68.3%)、40代(72.3%)、50代(66.5%)が高く、60代(56.6%)、70代以上(43.3%)は低かった。また、「他人に対する思いやりの心を育む」は、20代(57.5%)、30代(55.5%)、40代(58.9%)と高く、50代は49.6%と平均的であるのに対して、60代(43.7%)、70代以上(46.1%)は低かった。

「自分を大切にすることを育む」については、40代が0.9%と低い数値であるのに対して、70代以上では6.0%と高かった。

(%)	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
基本的な生活習慣を身につける	22.9	16.4	12.8	14.7	23.9	30.4	32.0
自分でできることは自分でする力を身につける	11.9	8.2	8.7	6.3	14.8	11.4	18.7
我慢する力を身につける	18.1	9.7	14.7	10.7	16.2	22.8	25.4
命やもの、自然環境を大切にすることを育む	32.6	29.1	33.6	28.1	35.2	39.6	27.5
他人に対する思いやりの心を育む	50.4	57.5	55.5	58.9	49.6	43.7	46.1
自分を大切にすることを育む	3.2	3	4.2	0.9	2.1	2.5	6.0
好き嫌いのない食事をし健康な体づくりをおこなう	3.3	1.5	2.6	0.9	1.1	3.5	8.5
正しい言葉づかいを身につける	13.2	16.4	16.2	15.2	9.2	12.7	12.0
良いことと悪いことを判断する力を身につける	35.1	31.3	33.2	33	32.7	36.4	41.9
社会生活に必要なルールやマナーを身につける	60.8	66.4	68.3	72.3	66.5	56.6	43.3
家族を大切にし家族の一員としての役割を果たす	4.7	4.5	3.8	1.8	5.3	5.4	7.0
いろいろな立場の人を受け入れる心を育む	20.7	31.3	25.7	29.9	23.2	13	11.3
地域の文化・歴史等を大切にすることを育む	11.5	11.2	10.9	13.8	13.7	10.8	9.2
知識・理解を深める学習への関心を高める	3.9	4.5	5.3	4.9	2.8	2.8	4.2
その他	0.5	0.7	0.8	0.9	0.4	0.3	-

「無回答」は省略

地域の教育力が「低下した」あるいは「ある程度低下した」とみる回答が、56.1%であり、地域の教育力を地域社会の秩序形成力にみていく傾向が読み取れる。

低下した理由として、「個人主義が浸透してきている」(46.6%)、「人間関係が限定的になっている」(45.2%)、と高く、自立とか自由など個人に価値をおく見方を地域教育の衰退と重ねている考え方がありと見える。

市民同士の交流に目を向けると、近所とのつきあいが上手くいっている人ほど、地域の教育力の衰退を感じない。近所の人とつきあいがある人は、家庭の教育力と地域の教育力を低下していないとみている。

年代層的に地域社会の教育力をみていくと、30代から40代が全体的に低下していると考えており、60代、70代以上は比較的低下していないとみている割合が高い。

子どもとの直接的な関わりからみると、「悪いことをしたとき、しかつたり注意したりする」では、40代と60代、70代以上が高い。しかし、「良いことをしたとき、ほめる」で「積極的にしている」では、40代は16.1%に対して、60代23.4%、70代以上22.9%となる。40代は子どもをマイナスに評価し、そこから成長させていこうとする傾向があるが、60代、70代以上は「ほめていく」ことで子どもの成長を促そうとしている。

「地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて」をとおして地域の教育力のあり方を概観すると、子育て世代(30代、40代)は、子どもに社会規範を教えていく方向で接していくのに対して、60代、70代以上は、子どもの自己実現を重要視して地域の教育力を見いだそうとしている。また、地域の教育力を学習や行政情報と連携して創り出そうという視点が弱く、地域社会の人間関係で補っていこうという傾向が強い。学習活動を通して社会認識を高めていくことを基本とした社会教育活動を組織していく側には、今後の課題となろう。
